

仕様書

ロボット・AI部

1. 件名

産業用ロボットへの展開が見込まれる異分野アカデミアシーズに係る調査

2. 目的

現状、日本の産業用ロボットメーカーにロボットのみを手掛ける企業は少なく、数多くあるセグメントの一つがロボット分野となっているに過ぎず、基礎・応用研究に割くリソースは極めて限定的であるというのが実態である。そこで、これまで直接関わることの少なかった、ロボティクスとは異なる分野も含めた幅広い大学研究者等との連携を図りつつ、産学が連携した研究体制を構築し、産業界における協調領域について検討を進めながら研究開発を実施する必要がある。

我が国が中長期にわたり、産業用ロボットにおける重要技術について世界をリードし続けていくためには、既存技術の改良・改善のアプローチのみならず、サイエンスの領域に立ち返った技術開発や、ロボティクスとは異なる分野の技術シーズの取り込み等によるイノベーションの創出が必要であるため、産業用ロボットへの展開が見込まれる異分野アカデミアシーズに係る調査を行う。

3. 内容

NEDOと調整の上、国内の大学から、ロボティクスとは異なる分野の研究を行っている研究室を調査し、産業用ロボットにおける重要技術（①ハンドリング・汎用動作計画技術、②遠隔制御技術、③ロボット新素材技術）に係る技術シーズを抽出する。

具体的には、上記各項目につき20大学（研究室）程度を机上調査し、うち各項目10大学（研究室）程度についてヒアリング調査を行い、各研究室の技術シーズが俯瞰できるように報告書にまとめる。また、上述の調査を元に、各大学の研究室が有する技術シーズと産業用ロボットにおける重要技術との関係について整理し、その結果をとりまとめる。

4. 調査期間

NEDOが指定する日から2021年3月19日まで

5. 予算

1,500万円以内

6. 報告書

提出期限：2021年3月19日

提出部数：電子媒体CD-R（PDFファイル形式） 1枚

提出方法：「成果報告書・中間年報の電子ファイル提出の手引き」に従って提出のこと

<https://www.nedo.go.jp/itaku-gyomu/manual.html>

7. 報告会等の開催

委託期間中又は委託期間終了後に、成果報告会における報告を依頼することがある。